

平成24年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	美術振興事業						担当部	教育委員会事務局							
	会計区分	一般会計			事業類型	一般		担当課	文化振興課							
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降		担当係	文化振興係							
	総合計画 分野別計画	主目的	4 教育文化		20 文化・芸術											
		副目的														
	予算区分	款	10		項	5		目	5		大	3		中	1	
	根拠法令・個別計画	小牧市文化振興ビジョン														
	実施・運営方法 ※費用合計に占める 経費の内訳(割合)	直接実施・ 運営	58 %			委託	42 %			助成	0 %					
	目的 (対象をどの様な 状態にするのか)	市民の美術への関心を高め、美術文化の振興を図る。														
	内容 (手段)	<p>○23年度実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民美術展(2,727千円) 市民からの作品を公募することにより市民の美術への関心を高め、美術文化の振興を図ることができた。10月23日から11月3日の会期で実施し、一般出品作品356点、賛助・委嘱作品54点を展示し、延べ4,457人の入場者があった。 また、美術展終了後、優秀作品の特別展示を各市民センターと公民館で行い、地域での鑑賞の機会を提供した。職員は市民美術展常任・運営委員会の開催、事前PR、展示の設営、スケジュール管理を行った。 ・絵画鑑賞講座(85千円) 名古屋造形大学と連携して2月5日から3月4日の毎週日曜日に連続5回で実施した。参加型の講座を開催し36名が受講した。美術鑑賞のポイントや楽しみ方を伝授し、最終回はメナード美術館で行い、本物に触れることで、より一層効果的な講座となった。講座終了後、市民ギャラリーで講座の報告展を行うことにより講座の周知に努めた。職員は講師の手配・受講料の管理・講義の運営補助を行った。 ・巡回ミュージアム 文化振興課所有のレプリカ絵画の巡回展示を6月2日から1月27日まで全中学校で実施し、身近なところで世界の名画に触れる機会を提供した。職員は、学校との日程調整・レプリカ絵画の運搬を行った。 ・美術鑑賞共催事業(1,000千円) メナード美術館と共催し、全戸配布される市広報にメナード美術展特別企画展の無料券及び割引券を掲載し、多くの市民に本物の名画を鑑賞する機会を提供した。特別企画展「吉田喜彦・林功」4月26日～6月19日、所蔵企画展「夏」6月28日～9月4日 来場者24,149人(招待券利用者1,440人、割引券利用者75人) ・市民ギャラリー企画展(628千円) 平成22年度に写真甲子園本選に出場を果たした小牧南高校写真部写真展を8月19日から8月25日まで行い、青少年に対する創作活動や発表の意欲を促進した。また、愛知文教大学と連携して小牧の古文書展示会を2月28日から3月4日まで行い、昔の小牧の様子を紹介した。 <p>○24年度実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵画鑑賞講座や市民ギャラリー企画展の内容に信長築城450年に因んだ内容を盛り込む。 														
受益者負担	絵画鑑賞講座受講料35,500円(1,000円×35名、500円×1名)															

		単位	H21決算額	H22決算額	H23決算額	H24予算額		
コスト	費用	直接経費	千円			4,534	5,145	
		正職員	従事者数	人			0.10	0.10
			人件費	千円	0	0	531	531
		その他職員	従事者数	人			1.00	1.00
			人件費	千円			2,242	2,242
		費用合計	千円	0	0	7,307	7,918	
	対前年比	%			皆増	108.3		
財源	一般財源	千円	0	0	7,272	7,883		
	国・県支出金	千円			0	0		
	その他財源	千円			35	35		

業	活動指標名	単位		H21	H22	H23	H24
	美術展出品作品数	点	目標		400	370	370
実績				354	356	356	
共催事業展覧会	回	目標		2	1	2	2
		実績		2	1	2	
績	成果指標名	単位		H21	H22	H23	H24
			美術展入場者数	人	目標	4,200	4,200
			実績	4,062	4,004	4,457	
招待券等入場者数	人	目標		3,000	3,000	3,000	2,000
		実績		3,612	1,194	1,515	

事業の自己評価	平成23年度の実施結果	事業の達成状況	市民美術展の出品作品数は、目標達成に至らなかったものの、ギャラリートークを充実させたため入場者数は増加につながった。メナード美術館の入場者数は、目標達成に至らなかったが、メナード美術館と共催することにより市単独では実施できない名画等を気軽に鑑賞できたため有効であった。
		事業実施における課題等	市民美術展は美術協会、書道連盟、写真連盟と連携して実施しているが、会員が固定化しており高齢化も懸念される。若い世代に関心が高まるような美術文化事業の展開が必要である。
		事業を縮小・廃止したときの影響	気軽に誰もが市民美術展に参加できる機会と、市民の美術に対する魅力を存分にアピールできる場が失われ、芸術への関心が低下する恐れがある。また、民間であるメナード美術館に気軽に足を運んでもらい、本物の名画に触れる機会を提供することができなくなる。
今後の事業の方向性	方向性の判定	現状維持	
	判定理由	昭和33年から実施している市民美術展は、美術愛好者の底辺の拡大と質の向上を図るうえで有効であるが、マンネリ化しない工夫が必要である。また、若い世代に関心が高まるような情報の発信が必要である。	
	改善案等	市民美術展のギャラリートークは好評であるためさらに充実させ、出品者だけでなく来場者にもわかりやすく魅力を発信していき、美術文化の底辺拡大に努める。メナード美術館という地域資源を有効に活用し、市民の誰もが参加しやすい環境づくりを積極的に推進し、美術文化の裾野を広げる工夫をする。	

二次評価	方向性の判定	判定理由
	現状維持	一次評価のとおり。ただし、レプリカ絵画を活用した巡回ミュージアムについては、レプリカ絵画の劣化に伴い廃止を含めた検討を行うこと。